

作成日 2006 年 10 月 26 日

改訂日 2010 年 12 月 28 日

## 製品安全データシート

### 1. 【 製品及び会社情報 】

製品名	ウィードコロン粒剤
会社名	丸和バイオケミカル株式会社
住所	東京都千代田区神田須田町二丁目 5 番 2 号
担当部門	開発本部 開発部
電話番号 / FAX	Tel: 03-5296-2313 Fax: 03-5296-2321
推奨用途及び使用上の制限	除草剤、農薬登録以外の使用は不可。
整理番号	20167-02

### 2. 【 危険有害性の要約 】

GHS 分類(分類 JIS)		
物理化学的危険性	自然発火性固体	区分外
健康に対する有害性	急性毒性(経口)	区分外
	急性毒性(経皮)	区分外
	皮膚腐食性/刺激性	区分外
	眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分外
	皮膚感作性	区分外
	発がん性	区分 1A
	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分 1(呼吸器系)
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分 1(呼吸器系、腎臓、吸入：肺)	
環境に対する有害性	水生環境有害性(急性)	区分 1
	水生環境有害性(慢性)	区分 1

\* 記載の無い危険有害性については分類対象外または分類できない。

### ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語  
危険有害性情報

危険  
発がんのおそれ  
呼吸器系の障害  
長期にわたる、または、反復暴露により臓器(呼吸器系、腎臓、肺)の障害  
水生生物に非常に強い毒性  
長期的影響により水生生物に非常に強い毒性

注意書き

【安全対策】  
使用前に取扱説明書を入手すること。  
すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。  
指定された個人用保護具を使用すること。  
粉じんを吸入しないこと。  
取扱い後手をよく洗うこと。  
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。  
環境への放出を避けること。

**【応急措置】**

暴露または暴露の懸念がある場合：医師の診断・手当を受けること。  
 暴露した場合：医師に連絡すること。  
 気分が悪い時は、医師の診断・手当を受けること。  
 漏出物を回収すること。

**【保管】**

施錠して保管すること。

**【廃棄】**

内容物、容器を関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄すること。  
 都道府県知事などの許可を受けた専門の産業廃棄物処理業者に委託して適切に処理すること。

**3. 【組成、成分情報】**

単一製品・混合物の区別  
 化学名（又は一般名）  
 化学式

混合物  
 5-ブromo-3-セコンダリーブチル-6-メチルウラシル  
 ブロマシル  $C_9H_{13}BrN_2O_2$

成分及び含有量		化審法 No.	安衛法 No.	CAS No.
<有効成分>				
ブロマシル	3.0%	(5)-937		314-40-9
<その他>				
鉱物質微粉等	97.0%			
(シリカ)	>30%		(1)-548	7631-86-9
(酸化アルミニウム)	<30%		(1)-23	1344-28-1

**4. 【応急措置】**

吸入した場合	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 気分が悪い時は、医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと。 多量の水と石鹼で洗うこと。 皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断・手当を受けること。
眼に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて、容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合は、医師の診断・手当を受けること。
飲み込んだ場合	気分が悪い時は、医師に連絡すること。 口をすすぐこと。 被災者に意識のない場合は、口から何も与えてはならない。

**5. 【火災時の措置】**

消火剤	水噴霧、粉末、泡、二酸化炭素など
使ってはならない消火剤	棒状放水
火災時の特有の危険有害性	燃焼ガスには、一酸化炭素等の他、窒素酸化物系のガス等の有毒ガスが含まれるので、消火作業の際には、煙を吸入しないように注意する。
消火方法	消火作業は風上から行う。 火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。 消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な措置を行う。
消火を行う者の保護	消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク)を着用する。

## 6. 【 漏出時の措置 】

人体に対する注意事項・  
保護具及び緊急時措置

屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。

多量の場合、人を安全に退避させる。

漏出時の処理を行う際には、必ずゴム手袋、保護眼鏡、保護衣等を着用すること。

環境に対する注意事項

流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起さないように注意する。

封じ込め及び浄化の方法・機材  
二次災害の防止策

漏出したものを直ちに掃き取り、空容器に回収する。

特になし

## 7. 【 取扱い及び保管上の注意 】

取扱い

取扱いは、換気のよい場所で行う。

屋外での取扱いは、できるだけ風上から作業する。

保護手袋および保護眼鏡を着用する。

取扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをする。

容器を転倒、落下させ、衝撃を加え、又は引きずる等の乱暴な取扱いをしてはならない。

取扱う場合は、局所排気内、または全体換気の設備のある場所で取扱う。

保管

直射日光を避け、換気の良い冷暗所に保管する。

食品や飲料から離して保管する。

## 8. 【 暴露防止及び保護措置 】

設備対策

取扱いについてはできるだけ密閉された装置、機器又は局所排気装置を使用する。

取扱い場所の近くに、眼の洗浄および身体洗浄のための設備を設置する。

保護具

呼吸器用の保護具

防じんマスク、簡易防じんマスク

手の保護具

保護手袋

眼の保護具

保護眼鏡

皮膚及び身体の保護具

長ズボン・長袖の保護服、保護長靴、保護前掛け

## 9. 【 物理的及び化学的性質 】

外観

淡褐色細粒

pH

8.7

融点/凝固点

ブロマシル: 157~160°C (融点)

比重

0.97

水溶解性

ブロマシル: 0.810g/L (25°C)

n-オクタノール/水分配係数

ブロマシル: logPow=1.71 (23°C)

## 10. 【 安定性及び反応性 】

安定性

通常の温度及び保管条件では安定。

危険有害反応可能性

情報なし

避けるべき条件

通常温度及び保管条件では安定。

混触危険物質

アミン類、特に第1級アミン

危険有害分解生成物

炭素酸化物、窒素酸化物

## 11. 【 有害性情報 】

急性毒性(経口)

ラット LD<sub>50</sub>: ♂ ♀ >5000mg/kg

急性毒性(経皮)

ラット LD<sub>50</sub>: ♂ ♀ >2000mg/kg

皮膚腐食性/刺激性

ウサギ 刺激性なし

眼に対する重篤な損傷・眼刺激性

ウサギ 軽度な刺激性を示したが、投与後 96 時間以内に消失したため、区分外とした。

皮膚感作性 発がん性	モルモット(Maximization 法)感作性なし。 本製品は鋳物質微粉として天然の粘土鋳物を含み、その中に区分 1A の石英(シリカ)を 0.1% 以上含むと考えられるため、区分 1A とした。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	本製品は鋳物質微粉として天然の粘土鋳物を含み、その中に区分 1(呼吸器系)の石英(シリカ)を 10% 以上含むと考えられるため、区分 1(呼吸器系)とした。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	本製品は鋳物質微粉として天然の粘土鋳物を含み、その中に区分 1(呼吸器系、腎臓)の石英(シリカ)を 10% 以上、区分 1(吸入:肺)の酸化アルミニウムを 10% 以上含むと考えられるため、区分 1(呼吸器系、腎臓、肺)とした。

## 12. 【 環境影響情報 】

### 生態毒性

魚類  
甲殻類  
藻類

コイ LC<sub>50</sub> 値(96hr):>1000mg/L  
オオミジンコ EC<sub>50</sub> 値(48hr):>1000mg/L  
緑藻 EbC<sub>50</sub> 値(72hr):0.189mg/L  
急性:藻類の EbC<sub>50</sub> 値より、区分 1 とした。  
慢性:急性区分 1 であり、急速分解性および生物蓄積性が不明であるため、区分 1 とした。

## 13. 【 廃棄上の注意 】

内容物、容器を関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄すること。

都道府県知事などの許可を受けた専門の産業廃棄物処理業者に委託して適切に処理すること。

## 14. 【 輸送上の注意 】

国内規制  
特別の安全対策

適用なし  
輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。転倒、落下、破損がないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。  
輸送容器は衝撃を与えないように、ていねいに取扱う。転倒したり、激突させたりしない。

## 15. 【 適用法令 】

農薬取締法  
労働安全衛生法

第 20167 号  
第 57 条の 2 通知対象物  
ブロマシル(政令番号 502)  
シリカ(政令番号 312)  
酸化アルミニウム(政令番号 189)

化学物質排出把握管理促進法(PRTR 法)  
毒物及び劇物取締法  
消防法

ブロマシル(第 1 種・383)  
該当なし  
該当なし

**16. 【 MSDSの作成と改訂に関する情報を含むその他の情報 】**

事故に伴い急性中毒の恐れがある場合

(財)日本中毒情報センター 中毒110番

	一般市民専用電話 (通話料のみ)	医療機関専用有料電話 (1件につき2000円)
大阪中毒110番 (年中無休、24時間対応)	072-727-2499	072-726-9923
つくば中毒 110 番 (年中無休、9~21 時対応)	029-852-9999	029-851-9999

記載内容は十分な配慮に基づき作成しておりますが、新しい知見により改訂されることがあります。本データシートは情報を提供するものであって、品質や安全性等に関していかなる保証もするものではありません。危険・有害性等の評価は必ずしも万全ではありませんので、取扱いには十分注意を払って下さい。また、注意事項は通常取扱いを対象としております。